

玉野市都市計画マスタープラン（案）・玉野市立地適正化計画（案）に関するパブリックコメントの結果について

- 1 実施期間 令和8年9月1日（火）～30日（水）
- 2 閲覧場所 玉野市ホームページ、市役所2階情報公開室※、各市民センター等情報公開コーナー
※24日以降は、新庁舎1階情報展示コーナー
- 3 募集結果 本件のパブリックコメントの募集に対して、3名から3件の意見が提出された。

項目	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	「玉野市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画」の案について、以下の理由から居住誘導区域の設定を見直すべきであると考えます。 1. 宇野・築港・田井地域への居住誘導に反対します 本地域は、過去の台風による甚大な浸水被害を受けた災害リスクの高いエリアです。 平成16年(2004年)の台風による高潮の浸水被害では、この地域も大きな被害を受けました。 今後も気候変動によるさらなる自然災害の激甚化が懸念される中、あえて浸水想定区域内に市民の居住を積極的に促すことは、市民の生命と財産の安全を守る観点から極めて問題があります。 2. 安全安心に住み続けることができる内陸部への誘導を求め	ご意見のとおり、宇野・築港・田井地域を含む沿岸部には、高潮や津波による浸水リスクがあることを認識しています。 本計画の災害リスク分析においても、高潮は浸水深1m以上の浸水が広範囲で想定され、宇野駅北部では浸水深3m以上となる区域があることなどを課題として整理しています。 居住誘導区域は、災害リスクだけでなく、既存の都市機能、公共交通の利便性、都市基盤の整備状況等を総合的に勘案して設定しています。 具体的には、中心市街地活性化区域、宇野駅及び市役所前バス停の徒歩圏、一定水準以上の鉄道・バスを利用できる範囲などを基本としています。 その上で、市民の生命及び財産の安全を確保する観点から、平成16年台風第16号の規模に基づく高潮モデルで浸水深3m以上となる区域、津波浸水想定区域で浸水深2m以上となる区域、土砂災害警戒区域等については、居住誘導区域から除外していま

ます。 都市計画や立地適正化計画の最も重要な目的は、将来にわたって市民が安全・安心に暮らせる持続可能なまちづくりを進めることです。 そのためには、災害リスクの高い沿岸部への居住誘導ではなく、安全性が高い内陸部への誘導へと軸足を移すべきです。 3. 既存市街地の集積を優先した居住誘導の考え方を見直すべきです。 既存の市街地におけるインフラの効率性やこれまでの集積度を優先するあまり、防災上のリスクを軽視した居住誘導を行うべきではありません。 いくら利便性や効率性が高くとも、高潮のたびに浸水や孤立の危険におびやかされる地域への誘導は、市民の安全安心という大原則に反します。 以上の理由から、本計画における居住誘導区域の指定および誘導方針について抜本的な見直しを求めます。	す。 一方、本市では高潮や津波等による浸水想定区域が広範囲に及び、その中に既成市街地も含まれているため、浸水が想定される区域を一律に居住誘導区域から除外することは現実的に困難であると考えています。 また、内陸部にも洪水、内水氾濫、土砂災害などのリスクがあることから、沿岸部・内陸部という区分だけではなく、災害の種類、想定される被害、避難可能性等を踏まえて安全性を判断する必要があると考えています。 このため、本計画では、比較的安全な区域への居住誘導によって災害リスクを回避するとともに、区域内に残るリスクについては、海岸保全施設の整備等のハード対策と、防災意識の啓発、情報伝達、避難訓練等のソフト対策を組み合わせる被害の低減を図る方針としています。 以上のことから、現時点では居住誘導区域の指定及び誘導方針を抜本的に見直すことは考えていませんが、ご意見の趣旨を踏まえ、災害リスクの周知と防災・減災対策を着実に進めるとともに、社会情勢や災害リスクの変化、対策の進捗状況等を確認しながら、必要に応じて計画の見直しを検討してまいります。
--	--

2	都市計画マスタープラン（原案）について意見を提出します。 宇野駅・宇野港周辺を、スポーツ・観光・商業・交通を統合した国際スポーツ都市として将来的に検討してほしいです。 宇野駅・宇野港周辺の都市拠点づくりに、スポーツ、観光、商業、公共交通を組み合わせた交流拠点を将来の検討事項として位置付けていただきたいと思います。 地元の子どもを育てるサッカークラブや市民が使える運動施設から始め、地域の利用と広域からの来訪を育てる構想です。 将来、大規模スタジアムを検討する場合には、候補地の権利関係、駅・港からの移動手段、試合時の交通需要、津波・高潮などの災害リスク、建設・維持費、民間資金の見通しを調査し、結果を市民に示していただきたいと思います。 収容規模や建設場所を先に決めず、既存施設の活用も含めて段階的に判断することを希望します。	本計画では、宇野駅・宇野港周辺を、複合的な都市機能と交通機能を備え、市民生活を支えるとともに、都市の活性化をけん引する都市拠点として位置付けています。 また、広域交通機能の維持・充実を図る交通拠点及び地域資源を生かして観光・交流を促進する観光交流拠点として位置付けています。 そのため、スポーツ、観光、商業及び公共交通を組み合わせ、市民と来訪者の交流を促進するというご提案は、都市拠点におけるにぎわいの創出に寄与するものと考えます。 一方、現時点では、国際スポーツ都市の形成や大規模スタジアムに関する具体的な構想・事業計画はないため、本計画に具体的な方針として反映する段階にはないと考えています。 また、都市計画マスタープランは将来の都市づくりの基本的な方向性を示すものであり、個別施設の整備内容、事業費、実施時期等を定める事業計画ではありません。 将来、大規模スタジアムを含むスポーツ施設について具体的な検討の必要性が生じた場合には、所管課において、施設の必要性や実現可能性等を検討するとともに、都市計画マスタープランとの整合を図ることとなります。 ご提案については、宇野駅・宇野港周辺における交流やにぎわいの創出に関するご意見として、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。
---	--	--

3	玉野市都市計画マスタープラン(案)および立地適正化計画(案)について意見を提出いたします。 私は玉野市の自然環境、静かな生活環境、そして市民同士の距離感の近い地域性に強い魅力を感じ、今の玉野がとても好きです。 こうした玉野らしさを守りながら持続可能な都市づくりを進めてくださっている行政の皆様に感謝しています。 資料にもあるように、空き家の増加は治安や景観の悪化につながる可能性があり(立地適正化計画【概要版】4ページ)、適切な対策が必要だという点に同意します。 一方で、とはいってもやはり軽率に地域外の会社や施設、ましてや移民等でそこを埋めることは、そのほうがよっぽど治安が悪化し、もっとよくないと考えます。 空き家や空き地の活用が「地域外の企業誘致ありき」や「地域住民の希望に沿わない/利益にならない形で進むこと」のないよう、慎重な検討をお願いしたいです。 もちろん、玉野市の自然減・社会減の状況も多く、地方自治体同様なため、外から人が入ってくる必要もあると思うので、他自治体から玉野市を魅力的だと思ってくれた人(日本人と、日本・日本人に倣い自立・自律している外国人)が移住してくるのはいいと思います。 なので、空き家・それを取り壊した空き地を活用するとしても、玉野市と住民第一で進めていただきたいし、住民の意見に	玉野市の自然や景観、静かで安心できる生活環境、地域コミュニティを大切に思うお気持ちと、他自治体で生じている事例などから、空き家・空き地の活用や開発によって、これまでの暮らしや玉野らしさが損なわれるのではないかと不安を感じておられることについて、ご意見として真摯に受け止めます。 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画は、個別事業の内容や手続を定めるものではなく、将来のまちづくりの方向性を示す計画です。 この計画を踏まえて、個々の都市計画や施策を検討していくこととしています。 本計画では、地域ごとの特徴を生かしながら、暮らしやすさ、働きやすさ、自然との調和を大切にした土地利用を進めることとしています。 ご提案の「玉野市民第一」の明文化、自然環境・景観への影響評価の義務化、住民参加型の事前協議制度は、具体的な制度や手続に関するものであるため、本計画で直接定めるものではありません。 一方、市民の安全で穏やかな暮らしを守り、地域の実情や住民意向、自然環境及び景観に配慮しながら土地利用を進めてほしいというご提案の趣旨は、本計画が目指すまちづくりの方向性にも通じるものと考えています。 いただいたご意見は、現在の良い生活環境や地域コミュニティ、玉野市の自然と景観を大切にしながらまちづくりを進め
----------	---	---

基づいて進めていただくべきだと考えます。 玉野市・市民に影響があり、今後もあり続けることになることだからです。 (データセンターを建てられたり、外国人(移民)を住まわされたりすることが特に不安です。これに関しては他国・他自治体の失敗や求心力・魅力の激減からして、玉野市には絶対に入れたり定着させてほしくないと思っています。過激に聞こえるかもしれませんが、これらは不可逆的な存在で、一度入れたら「小さな中で協力して頑張って、静かにおだやかに暮らしている日本の地方自治体」であるこれまでの玉野市は戻ってこないし、それは絶対に嫌です。) 玉野市の自然や動物・環境を第一に配慮し、口先や書類だけではなく実行する人・企業・団体を受け入れることで、玉野市民の住み続けたい気持ちも、外から見た市としての価値も上がると思います。 そのため、以下のような具体的な仕組み・方針の導入を検討していただきたいです。 〈提案したい具体的な政策・仕組み〉 ①空き家対策を「玉野市民第一」で進めることの明文化 市民の安全・静かな生活・景観を守ることを最優先に、活用方針を策定してほしい。	ることを求めるものとして受け止め、今後も住民意向の把握と反映に努めるとともに、空き家・空き地の活用や土地利用に関する施策を検討する際の参考とさせていただきます。
--	---

	②自然環境・景観への影響評価の義務化 ・玉野市の自然・海岸線・動植物への影響を評価し、基準を満たさない事業は認めない方針を明確化してほしい。 ・特に海・山地・田畑など周辺では、より厳格な基準を設定してほしい。 ③空さ家・空き地活用に関する「住民参加型の事前協議制度」の創設 ・大規模や影響範囲の多い事業や、影響の長く続く事業が計画される場合、用途・規模・周辺環境への影響を住民に説明し、意見を反映する仕組みを制度化してほしい。 (住民へも説明としては、市役所や市民センターでの説明会も続けてほしいが、さらにホームページなどオンラインのものも増えたらより嬉しい。一人一人の意見を反映する仕組みが浸透したらいいなと思います。)	
--	---	--